

## 日本チャーチオブゴッド教団 被災地支援活動報告

2011年3月11日に起こった東日本大震災の直後、教団は一致して被災地のために祈り、捧げ、現地での支援活動に携わることを決定しました。毎年5月に開催されている教団の五月聖会を「緊急特別祈祷聖会」とし、被災地のために祈り、被災者支援金を募りました。また、米国教団本部からも支援金が届けられ、米国教団本部の災害支援団体 Operation Compassion との連携も図られました。現地での支援活動は、岩手県沿岸部での支援ボランティア活動への参加というかたちで進められました。やがて岩手県遠野市に支援の拠点となる家を主の導きによって半年の契約で借りることができ、教団各教会から派遣された支援活動チームによって継続的に活動を行うことができました。この半年間で行われたボランティア活動は、泥掻き・瓦礫撤去から始まり、炊き出し、マッサージ、現地の復興プロジェクトへの協力参加、若者のスポーツ交流など18回にもおよびました。

支援活動を続けるうちに、支援の焦点が岩手県大槌町に導かれるようになりました。大槌町は人口1万5千人ほどの小さな町でしたが、津波によって人口の約1割にあたる1500人以上が犠牲となり、当初は9千人の避難者がいました。しかし、町長を含む町役場の職員の多くが犠牲となったため行政機能が麻痺し、町民への支援活動が滞っていました。



被災地のために祈る南米人チーム



避難所での炊き出し

この大槌町ではすでに、アガペーCGNをはじめ多くのキリスト教会とクリスチャンたちの長期に亘る地道な支援活動によって地域のリーダーの方々の良い信頼関係が築かれており、その中に私たちの教団の働きも加えられていきました。

遠野市の拠点を引き上げた後、大槌町に物件を探しましたが、地震と津波その後の火災によって中心部が壊滅状態となった大槌町での物件探しは困難を極めました。しかし、多くの祈りと忍耐強い物件探しの結果、奇跡的に大槌町大ヶ口に古屋付きの100坪の土地が与えられ、2012年8月28日には「地域支援センター・大槌ジョイフルハウス」として開所式が行われました。この大槌ジョイフルハウスを拠点にさらに地域でのボランティア活動が続けられていきました。



大槌ジョイフルハウス  
杉浦一家



公民館での韓国チームによるマッサージ



大槌ジョイフルハウスでの礼拝



被災住宅清掃

新たな拠点探しと平行して、働き人の募集を教団の各教会に呼びかけたところ、ちょうど聖書学校卒業後の進路を祈り求めている杉浦兄弟の目に留まり、導きを祈り求める中で御言葉によって主が自分たちを大槌町に遣わされることを確信し、2013年5月から一家4人で大槌町に移り住むこととなりました。こうして、活動の拠点と常駐する働き人が備えられたことによって、今まで以上に地域の方々との親しい信頼関係が築き上げられ、礼拝や子どものためのミニストーリーが行われるようになり、少しずつですが地域の方々との繋がりも広がってきました。また活動の拠点として、国内外また教団教派を越えた教会や団体や支援チームの受け入れが可能となり、協力関係をもって地域復興と福音宣教のために様々な働きがされるようになりました。将来的には、まだ教会のないこの地に教会を建てるというビジョンに向かって進んでいます。

# 日本フォースクエア福音教団の東日本災害復興支援

教団災害対策委員長  
秋津福音教会 小坂叡華

## I)2011年の取り組み

グローバルな教団の特徴を踏まえ、各教会の特徴を生かした支援活動を教団がサポートした。

- 1)ミュージックケア、チャリティコンサート、通訳(英語・ポルトガル語)、ボランティア派遣、被災地の家屋清掃、炊き出し、生活物資配達など。
- 2)クラッシュジャパン、サマリタンパース、DRGnet、ホクミン、ミクタム等のクリスチャン支援団体と協力して活動した。
- 3)海外のフォースクエア教会のボランティアを受け入れて支援活動地域への派遣。米国の10教会から度々ボランティアチームが送られ、フラダンス、生活用具製作クラブ、物資配給等を行う。被災時間に合わせた「3時のとりなしの祈り」は現在も継続している。



### ※支援活動費について

国内教会以外に米国、香港、ニュージーランド、イギリス、ヨーロッパ、アジアからフォースクエア教団の基金から祈りと献金が捧げられた。これらの支援金は国内教会からのボランティアチーム派遣の旅費補助、重点的に活動を継続している働きへの定期的な活動費及び物資購入費用に用いられた。

## II)2012年の取り組み

2011年の活動を継続、各教区から各々チームを派遣。函館シオン教会はフォーシーズンとして大槌町を中心に泥かき、炊き出しの活動、仙台シオン教会が J-hope として宮城県気仙沼小泉中学校仮設住宅での子ども会、お茶飲み会、音楽集会、弘前シオン教会の Renee 宣教師を中心に岩手県宮古市仮設住宅、田老町への物資配給、秋津福音教会の小坂忠師を中心に宮城、岩手、福島を越えた仮設の巡回ミュージックケアを継続した。



気仙沼 J-hope子ども会

加えて4月からは東北のコミュニティFM放送局23局から毎週1時間、各方面のゲストを迎えた支援ラジオ放送「ONEBODY」を開始。



宮古市榎内仮設

### Ⅲ)2013年の取り組み

3.11 いわて教会ネットワーク、宮城宣教ネットワーク、福島FCC、東北ヘルプなど被災地教会の教派を越えた教会協力による復興支援ネットワークと協力してミュージックケアを続けている。4月からのラジオ支援は2年目の東北に加えて首都圏にも拡大しリスナーに音楽とメッセージ、東北の声を伝えた。気仙沼仮設支援も継続。海外のボランティアも休暇を利用して来日している。



ONEBODYラジオ放送

### Ⅳ)2014年以降の取り組み

被災者の心の癒しミュージックケア、福島の子ども保養プログラム(わくわく沖縄キャンプ)などを実施する。海外ボランティアチームも、双方の要請があれば必要な地域への派遣を行う予定。被災者が希望と生きがいをもてるように仕えていくと同時に諸団体と情報交換をしながら東北の救いとリバイバルのために支援をする。



わくわく沖縄キャンプ

# 東日本大震災救援活動報告

2011年3月～2014年3月

単立ペンテコステ教会フェロシップ (TPKF)

代表 中見 透

2011年 TPKF で国内外の義援金の窓口を設け、1449334円（海外9477606円、国内5015748円）が寄せられ、被災地の諸教会、ボランティア活動に用いさせていただきました。

## 1. 岩手県への支援

宮古コミュニティチャーチ（岩塚和男師）

陸前高田キリスト教会（森田為吉師）



石巻泥だしボランティアチーム

## 2. 宮城県への支援

気仙沼聖書バプテスト教会（千葉仁胤師）

気仙沼ホープセンター（サマリタンパース、）

気仙沼第一聖書バプテスト教会（嶺岸 浩師）

クラッシュジャパン利府町ベース（総責任者ジョナサン・ウイilson師）

サマリタンズ・パース登米ベース（総裁フランクリン・グラハム師）

拡大宣教学院（永井信義牧師）

東松島アメイジンググレイスセンター（伊藤博牧師）

グローバルミッション（森 章師）

いわきホームチャペル（黒田 望師）



サマリタンパース登米ベース  
立ち上げ応援

## 3. 福島県への援助

FUKUSIMA 命の水計画（奥山 実師）

ふくしま HOPE プロジェクト（木田恵嗣師）

## 4. その他

DRCnet への支援

## 5. ボランティア活動

○宮古コミュニティチャーチ

仮設住宅訪問

○サマリタンパース登米ベース

ベース立ち上げ援助、南三陸、石巻の泥出し作業、仮設住宅訪問

○気仙沼ホープセンター

泥出し作業、園児慰問、仮設住宅訪問



南三陸泥出し

## 5. これから

TPKF としては、今後も義援金窓口を継続して常設し、気仙沼ホープセンターを中心としたボランティア活動、福島への支援活動を続けて行く予定です。



宮古仮設住宅訪問

## 震災に合わせた活動報告書 神の家族キリスト教会

神の家族キリスト教会においては、仕える僕、器として、今回の震災を捉え、実践してきたつもりです。詩篇 18 篇 35 節から 36 節の御言葉に、「こうしてあなたは、御救いの盾を私に下さいました。あなたの右の手は私をささえ、あなたの謙遜は、私を大きくされます。あなたは私を大またで歩かせます。私のくるぶしはよろけませんでした。」とダビデが語っています。その言葉通り、震災直後から、今に至るまで多くの働きが主に支えられ、仕える僕としてなされていったと考えています。

私たちの団体は、名古屋地区に教会が集中しているため、地理的に、すぐいけるというものではありませんでしたが、東北の教会と協力して、支援活動をさせて頂きました。信仰の友との深い関係の中で、震災直後から現地に入ることができ、主に在って一つということを実践できたようなきがいたします。また牧師や教会員が現地に実際に赴き、被災された東北の各地の教会を回らせていただいて教団教派を超えて、物質的

な支援や献金、復興活動に汗を流す機会を得させていただきました。その時に共に泣き、賛美し、祈りをささげた時に感じた、主の臨在の喜びは、大きな励みでした。このように早くから直接的な支援ができた事は、その後の活動に大きな変化をもたらしたと感じています。支援の取組みにおいても教会が中心となり、地域にも呼びかけ、生活支援品や義捐金を集める機会を持ち、集めた支援物資を届けた後に、ニュースを発行するなどして、支援していただいた方々にも報告させて頂きました。そのような地域との協力を通して、人々が福音に触れる機会にもなったと感じています。



2011.05.11 被災された教会跡地で共に祈る

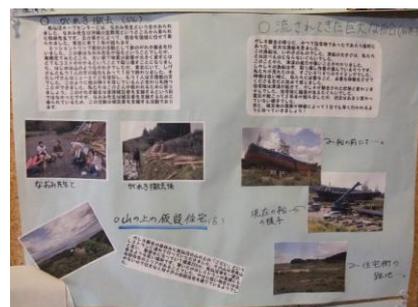


2011.支援物資運搬

また、継続的に支援していくためにも、クリスチャンチャリティーという口座を開設し、名古屋地区だけではなく、遠くカナダやアメリカからの尊しさげものが、個人や団体、聖書学校、公立学校、教会などからなされました。

カナダでも、日本でも、教会員だけでなく未信者「一般の方々」からも支援の輪が広がり、総額は500万円ほど集まり、皆さんの愛に感謝する限りです。尊くさげられた義捐金、支援金は、さげられた方々の思いを大切に、適切に被災者の手元に届けることが出来たと思っています。

小規模ではありましたが、随時チームは編成され、ある教会では 11 回以上、全体では数え切れないほどの活動に赴き、炊き出し、医療チーム、ボランティア活動、仮設慰問、コンサート等など、現地の要望が変化していく中で、対応していったと思っています。またカナダから現地に若者を連れて行きたいと要請があり、合同で出来た事や、初めて会うクリスチャンとも現地で活動ができた事は、主にある兄弟を強く感じた出来事でした。私達の働きは小さな物であったと思いますが、グループの教会一つ一つが東日本大震災の災復興活動に参加できたと考えています。その働きの中で、教会が強められていることを覚えます。そして、仕え



東北ミッショントリップ新聞

るという事を改めて教えられたと感じています。

マタイ 5 章 8 節の御言葉に「心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。」とありますが、僕である私達が、評価や野心や下心といった。二心でなく、主に仕えるように心から仕える時、人々は神を明確に見るのではないのでしょうか。今回の震災は、甚大な被害をもたらしましたが、クリスチャン一人一人の姿を通して、主の愛が伝わったのではと思います。その姿は紛れもなく主が喜ばれる姿であり、クリスチャンライフの生き方そのものだと思います。

今回の震災を通して、私達は多くのことを知らされました。

- ・一人ではないこと。      ・日本が覚えられていること。      ・主が哀れんでおられること。
- ・一致することの大切さ。      ・心から仕えることの大事さ。      ・御言葉の真実。
- ・隔ての壁が取り除けられるときの、主の臨在のすばらしさ・・・など。

今後も、これまでの一つ一つの働きを覚え、主の僕として、まさに、仕えるリーダーであるイエス様に習い、人々の救いと回復に喜んで仕えるなら、もっともっと聖霊は働いてくださると確信します。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

東日本大震災被災地支援報告

当教団の被災地支援活動について簡単に報告させていただきます。

震災直後、すぐに災害対策本部を設置し、被災地支援に動きましました。以下がその内容です。

1. 被災地にある当教団所属の教会の被災状況の把握

FaceBookに「日本アッセンブリー大震災支援ネットワーク」のグループと教団ホームページに対策本部公式ブログを立ち上げ情報収集と発信をした。

2. 国内外のアッセンブリー教団・教会への支援要請

3. 支援活動のためのボランティア募集と被災地への派遣

4. 被災者支援カウンセラーの養成セミナーの実施

震災翌月の4月にセミナーを開催した。

5. 東松島市、釜石市に支援センターを開設（支援活動継続中）

釜石支援センターでは、2013年7月よりハワイ第一アッセンブリー教会から、支援チームが来て常駐している。



郡山の避難所ビッグパレット



東松島の支援センター

東松島支援センターでは、定期的に炊出しなどを行い、また英会話、料理教室などのプログラムを通して支援活動が続けられている。

6. 福島県に郡山、いわき、相馬に支援活動拠点の設置（支援活動継続中）

7. 3月11日を「東日本大震災復興祈禱日」とし、教団をあげて祈りの日とし、3月11日に近い日曜日に復興祈禱礼拝を行っている。

震災1年後、2012年3月10日に仙台市において、これからの復興と宣教を担うユース集会を開催した。



災害対策本部は、継続的な支援体制を確立するために2012年より東北復興委員会に支援活動が引き継がれ、現在に至っています。さらには、支援活動を通して福音が伝えられていくことを願っています。その他、教団、教派を超えて協力し、支援を行ってきました。これからも協力体制を維持し、支援活動を続けていきたいと思っています。

以上、感謝しつつご報告させていただきます。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団東北復興委員会

委員長・本田勝宏

支援の様子



炊き出し



支援物資と支援チーム



献品された自転車

日本ペンテコステ教団

教団としては、聖書学院神学生を6回、私が4回支援に行きました。漫画等福音文書を1000部贈呈。教会員が被災地に5回、いわき市や福島市、牡鹿半島等にラーメン炊き出し2000食。今年も3月11日に、仮設住宅や保育園に炊き出しを行います。2012年に体調を損ない、今年は同行できず祈りにて支援をしております。

以上の簡単な報告だけです。よろしく願いいたします。

日本ペンテコステ教団

代表 榮義之